

香川・高松城跡 (2) (丸の内地区)

- 1 所在地 香川県高松市丸の内
- 2 調査期間 二〇〇一年(平13) 四月～九月
- 3 発掘機関 (財)香川県埋蔵文化財調査センター
- 4 調査担当者 乗松真也
- 5 遺跡の種類 城郭跡(武家屋敷)
- 6 遺跡の年代 鎌倉時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地点は高松城跡の南側、中堀と外堀に挟まれた位置にある。

一三世紀中葉から後半までの井戸二基を検出しており、高松城築城



(高松)

以前はこの地点が集落であったことを物語る。この後の状況は明らかでなく、次は生駒親正による高松城築城期から、遺構が認められるようになる。これ以降は、遺構変遷を六期九区分している。残された高松城周辺の絵図と遺構の照合も検討

されている。調査地点の北隣では、藩主が松平氏に替わって後の藩主連枝松平大膳家の屋敷が絵図どおり存在したことが、高松市教育委員会の調査により明らかにされている。

木簡四点の出土した土坑SK〇九は、発掘区の端に位置するが、隣接する、高松市教育委員会により調査されたSK一二三(本号掲載)と一体となる一辺四m前後の廃棄土坑であることが判明した。この土坑からは、陶磁器などが比較的まとまって出土しており、それらより一八世紀第Ⅲ四半期から第Ⅳ四半期前半までの年代が与えられている。この遺構の中心部分であるSK一二三は松平大膳屋敷地に含まれ、饗宴後の片付けに伴うゴミが大量に廃棄された可能性が指摘されている。これにより以下の木簡も、松平大膳屋敷との関わりの中で解釈すべきであろう。

8 木簡の釈文・内容

- | | | |
|-----|------|-----------------|
| (1) | □一苞 | (76)×24×2 059 |
| (2) | 「阿州 | (56)×24×2 019 |
| (3) | ・新□□ | |
| | ・惣□□ | (90)×(19)×4 059 |

(4) ・「」。高松家中中村□

・「」。高松家中飯嶋藤□^{〔吉カ〕}

(231)×50×6 039

(1)は板目材で、上端が折れている。下端は左側が斜めに切れている。(2)は板目材で、下端は折れている。藁包みの荷につけられた荷札であろう。(3)は上下左右とも折れている。(4)は板目材の荷札木簡である。下のみ折れている。上部には紐通し用の孔が穿たれ、切り込みを有する。

なお、釈読にあたっては、香川県歴史博物館の御厨義道氏のご教示を得た。

9 関係文献

香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター『高松家庭裁判所移転に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 高松城跡(丸の内地区)』(1003年)

(古野徳久)

